

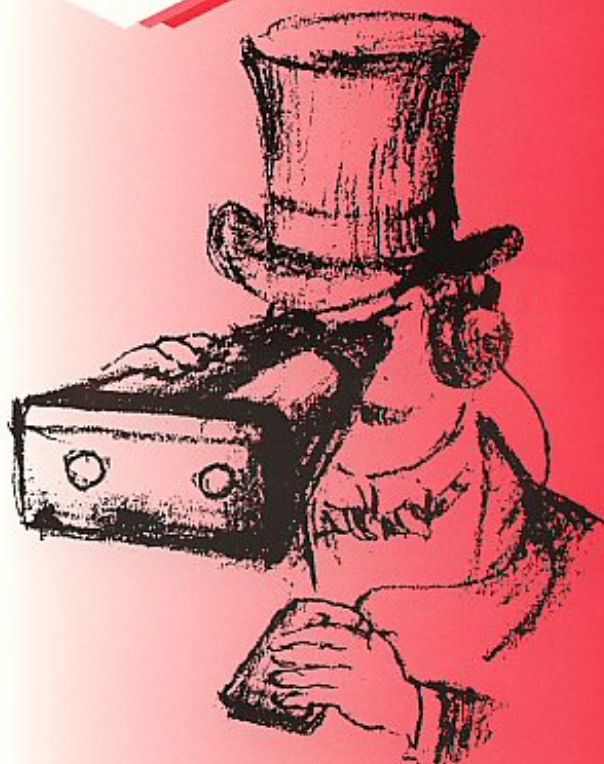
# 日商2級

## 受験用テキスト

これ1冊でラクラク合格

### 商簿

簿記をぶっとばせ  
シリーズ3



受験勉強は量の多さではありません。  
知識の正確な理解と的確な試験の  
出題内容の把握です。

本書は、受験生のハートを熟知した「簿記の神様」と  
受験界で呼ばれている公認会計士が執筆していますので、  
ムリ・ムダなく安心して、しかも楽しく自宅学習ができ、  
自信を持って受験会場へ臨めます。

著者 公認会計士 井川 博行

LICENSE SCHOOL  
**ico**  
会計専門の受験指導校





# 目 次

第0章 日商3級の復習	1
第01節 簿記一巡の流れ	2
第1章 個別論点	7
第01節 商品有高帳(後入先出法)	8
第02節 商品有高帳(平均法)	10
第03節 仕入及び売上の割戻	12
第04節 仕入及び売上の割引	14
第05節 商品の棚卸減耗	16
第06節 商品の評価替え	18
第07節 未渡小切手と未取付小切手	22
第08節 銀行勘定調整表	24
第09節 債券の端数利息	26
第10節 有価証券の評価替	28
第11節 満期保有目的債券の償却原価法の適用	30
第12節 有価証券の貸借	32
第13節 有価証券の差入・預り	34
第14節 手形の不渡	36
第15節 債務保証	40
第16節 手形の更改(書換え)	42
第17節 荷為替手形	44
第18節 未決算勘定	46
第19節 商品保証引当金	48
第20節 修繕引当金	50
第21節 退職給付引当金	52
第22節 未着品売買	54
第23節 委託販売	56
第24節 受託販売	60
第25節 割賦販売(販売基準)	64
第26節 割賦販売(回収基準)	66

第27節	試用販売	70
第28節	予約販売	74
第29節	総記法による売買取引の処理	76
第30節	小売棚卸法による売買取引の処理	80
第31節	売上原価対立法による売買取引の処理	84
第32節	有形固定資産の除却・廃棄	88
第33節	建設仮勘定	90
第34節	減価償却(定率法)	92
第35節	減価償却(生産高比例法)	94
第36節	資本的支出と収益的支出	96
第37節	無形固定資産	98
第38節	投資その他の資産	100
第39節	長期前払費用	102
第40節	創立費・開業費	104
第41節	株式交付費・社債発行費等	106
第42節	開発費・研究開発費	108
第43節	法人税・住民税	110
第44節	事業税	112
第45節	消費税	114
第46節	資本金(設立時)	116
第47節	資本金(増資時)	120
第48節	資本剰余金	122
第49節	利益準備金	124
第50節	任意積立金	126
第51節	繰越利益剰余金	128
第52節	剰余金の配当	130
第53節	剰余金の処分	132
第54節	株主資本等変動計算書	136
第55節	社債(発行時)	142
第56節	社債(利払時)	144
第57節	社債(期末時)	146

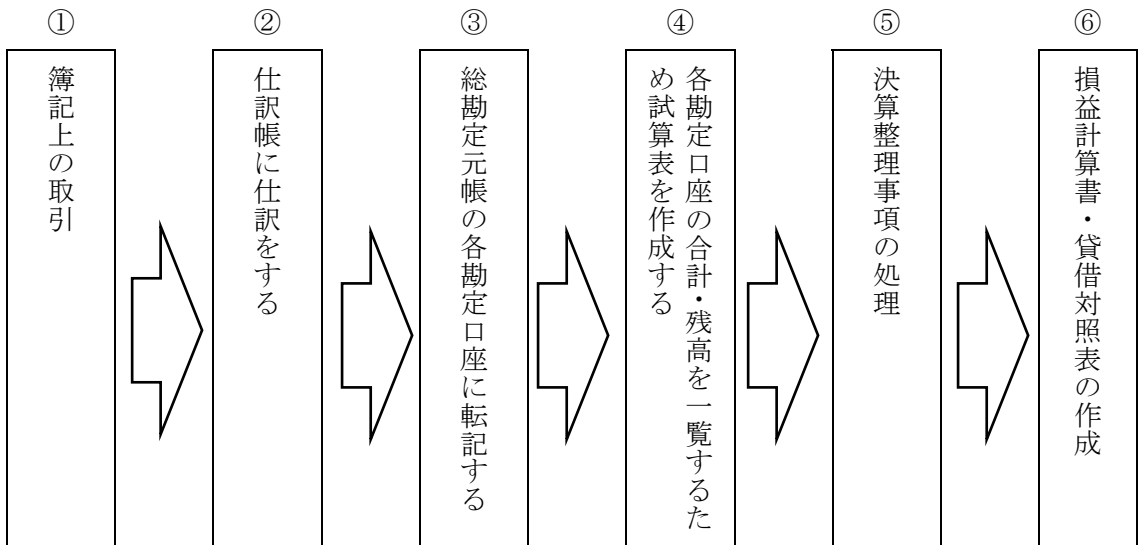
第58節	社債(満期償還) .....	148
第59節	社債(買入償還) .....	150
第60節	貸借対照表の区分表示 .....	154
第61節	損益計算書の区分表示 .....	156
第62節	精算表の完成問題 .....	158
第2章	帳簿組織 .....	165
第00節	帳簿の基礎知識 .....	166
第01節	現金出納帳 .....	168
第02節	当座預金出納帳 .....	170
第03節	仕入帳 .....	172
第04節	売上帳 .....	174
第05節	支払手形記入帳 .....	176
第06節	受取手形記入帳 .....	178
第07節	一部現金ないし当座取引の処理その1 .....	180
第08節	一部現金ないし当座取引の処理その2 .....	182
第09節	一部現金ないし当座取引の処理その3 .....	184
第10節	二重仕訳 .....	186
第11節	合計仕訳 .....	188
第12節	二重仕訳削除金額 .....	190
第13節	合計試算表の作成 .....	194
第14節	大陸式簿記法と英米式簿記法 .....	198
第3章	伝票式会計 .....	201
第1節	3伝票制 .....	202
第2節	5伝票制 .....	206
第3節	伝票の集計と元帳への記入 .....	210
第4章	本支店会計 .....	215
第01節	本支店会計とは .....	216
第02節	本支店間取引の処理その1 .....	218

第03節	本支店間取引の処理その2	220
第04節	未達事項の整理 その1	222
第05節	未達事項の整理 その2	224
第06節	内部勘定の相殺	226
第07節	内部利益の除去 その1	228
第08節	内部利益の除去 その2	230
第09節	本支店財務諸表の合併 その1	234
第10節	本支店財務諸表の合併 その2	236
第11節	支店損益の本店への振替	242

# 第0章 日商3級の復習

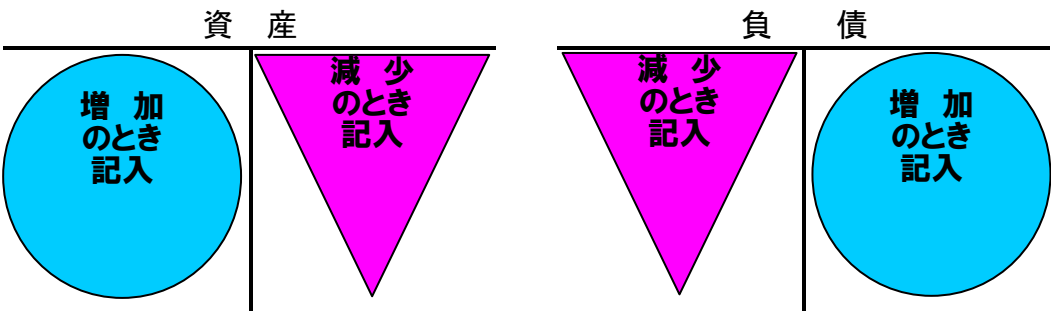
# 第01節 簿記一巡の流れ

この章では、日商3級で学習した簿記一巡の手続の復習をしてみたいと思います。まず、①日々の活動から簿記上の取引になるものを取り出します。簿記上の取引とは、会社の資産・負債・純資産を増加させたり、減少させたりする取引です。次に、②簿記上の取引について、『仕訳』(しわけ)を仕訳帳という記録簿に記入します。仕訳というのは、簿記上の個々の取引について一定のルール(借方、貸方、勘定科目、金額)にしたがって記録することをいいます。さらに、③各勘定科目の増減・残高を知るために総勘定元帳という記録簿に各勘定口座を設けて記入します。仕訳帳から総勘定元帳の各勘定口座に移すことを『転記』といえます。そして、④総勘定元帳の各勘定口座の合計・残高を一覧表にまとめた『試算表』を作成します。最後に、⑤期中で処理できなかったもの(決算整理事項)を決算において記入します。その結果、⑥損益計算書と貸借対照表が作成されます。



仕訳と転記のルール

## 貸借対照表グループの場合







3. 当社は、4月10日に商品50,000円を掛けで販売した。なお、代金の回収は翌月末の予定である。

(借) 売掛金(注1)	50,000	(貸) 売上(注2)	50,000
-------------	--------	------------	--------

(注1) 売掛金は、資産で、しかも会社の資産が増加したのですから、『借方』に記入します。

(注2) 売上は、収益で、しかも会社の収益が増加したのですから、『貸方』に記入します。

4. 当社は、4月25日に従業員に給料20,000円を現金で支給した。

(借) 給料(注1)	20,000	(貸) 現金(注2)	20,000
------------	--------	------------	--------

(注1) 給料は、費用で、しかも会社の費用が増加したのですから、『借方』に記入します。

(注2) 現金は、資産で、しかも会社の資産が減少したのですから、『貸方』に記入します。

5. 上記1.から4.までの仕訳を総勘定元帳の各勘定口座に転記しなさい。

**貸借対照表グループの場合**

<b>現 金</b>	<b>買掛金</b>
4/1 資本金 100,000	4/5 仕入 40,000
4/25 給料 20,000	
<b>売掛金</b>	<b>資本金</b>
4/10 売上 50,000	4/1 現金 100,000

**損益計算書グループの場合**

<b>仕 入</b>	<b>売 上</b>
4/5 買掛金 40,000	4/10 売掛金 50,000
給 料	
4/25 現金 20,000	

6. 前ページ5.にもとづいて合計・残高試算表を作成しなさい。

合計・残高試算表 (単位：円)

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
80,000	100,000	現 金	20,000	
50,000	50,000	売 掛 金		
		買 掛 金	40,000	40,000
		資 本 金	100,000	100,000
		売 上	50,000	50,000
40,000	40,000	仕 入		
20,000	20,000	給 料		
190,000	210,000	合 計	210,000	190,000

7. 決算となり、期末の商品の棚卸高は18,000円であった。決算整理仕訳を示しなさい。なお、売上原価の計算は仕入勘定で行っている。

(借) 繰 越 商 品	18,000	(貸) 仕 入	18,000
-------------	--------	---------	--------

8. 6.の残高試算表と7.の決算整理事項にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。

損益計算書			貸借対照表			
自×年×月×日至×年×月×日			×年×月×日 (単位：円)			
I 売 上 高		50,000	現 金	80,000	買 掛 金	40,000
II 売 上 原 価			売 掛 金	50,000	資 本 金	100,000
1 期首商品棚卸高	0		繰 越 商 品	18,000	当期純利益	8,000
2 当期商品仕入高	40,000		合 計	148,000	合 計	148,000
合 計	40,000					
3 期末商品棚卸高	18,000	22,000				
売上総利益		28,000				
III 販売費及び一般管理費						
1 給料		20,000				
当期純利益		8,000				



# 第1章 個別論点

# 第01節 商品有高帳(後入先出法)

商品有高帳の払出欄に記入するとき、受入の単価が仕入れるたびに異なると、払出単価をどの仕入分からにするか迷ってしまいます。そこで一定の仮定計算を行います。

先入先出法の場合には、先に購入したものから払出が行われたものとみなして払出金額を計算しますので、ものの流れに従った方法として理解しやすいメリットがあります。

一方、後入先出法の場合には、後から購入したものから払出が行われたものとみなして払出金額を計算します。この方法は、物価上昇時には、売上と売上原価とが同一の物価水準で対応されますので保有利得(土地などを長い間保有していると物価が上昇して土地の時価が上昇して含み益が生じていることをいいます)を排除でき純粋な営業活動にもとづく利益が計算されるというメリットがあります。

手続としては、受入欄の記入については先入先出法と同様ですが、払出欄の記入が違ってきます。新しく購入した受入単価を払出単価にしていくので、最後に残っている期末商品の単価は古い単価から構成されることになります。なお、後入先出法は、その都度後入先出法と期別後入先出法とで計算結果が異なる場合がありますので注意が必要です。

その都度後入先出法

(単位：円)

日付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1/1	前 繰	6 個	10	60				6 個	10	60
3/7	仕 入	4 個	15	60				{ 6 個 10 60 4 個 15 60		
5/9	売 上				{ 4 個 15 60 4 個 10 40				2 個	10
7/4	仕 入	6 個	16	96					{ 2 個 10 20 6 個 16 96	
11/8	売 上				5 個	16	80	{ 2 個 10 20 1 個 16 16		
12/31	当期払出				13 個		180			
〃	次 繰				{ 2 個 10 20 1 個 16 16					
		16 個		216		16 個		216		
1/1	前 繰	{ 2 個 10 20 1 個 16 16								

● コメント

その都度後入先出法の場合には、5/9 に払出が 8 個ありますが、まずそのうちの 4 個は 3/7 の受入れ単価 15 円を払出します。そして、残りの 4 個については 1/1 の前繰の単価 10 円を払出します。そうすると残るのは 1/1 前繰 2 個、単価 10 円で残高 20 円となります。11/8 も同様に行います。

もし、期別後入先出法だと、期間のうち一番後に受入れた 7/4、6 個、単価 16 円が 5/9 の払出しになります。そして、残りの 2 個については 3/7 の受入れ単価 15 円を払出します。11/8 の 5 個のうち 2 個は 3/7 の受入れ単価 15 円を、残りの 3 個については 1/1 の前繰の単価 10 円を払い出します。

**取引例**

前頁のその都度後入先出法の資料にもとづいて、期別後入先出法の商品有高帳を作成しなさい。

期別後入先出法

(単位：円)

日付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1/1	前 繰	6 個	10	60				6 個	10	60
3/7	仕 入	4 個	15	60				{ 6 個 10 60 4 個 15 60		
5/9	売 上				{ 6 個 16 96 2 個 15 30				{ 6 個 10 60 2 個 15 30	
7/4	仕 入	6 個	16	96						{ 6 個 10 60 2 個 15 30
11/8	売 上				{ 2 個 15 30 3 個 10 30			{ 6 個 10 60 2 個 15 30	3 個	
12/31	当期払出					13 個			186	
"	次 繰				3 個	10	30			
		16 個		216	16 個		216			
1/1	前 繰	3 個	10	30						

なお、練習問題は、省略します。

# 第02節 商品有高帳(平均法)

前節では商品有高帳の記帳方法の1つである後入先出法を学習しましたが、この節では平均法について学習します。平均法の場合にも総平均法と移動平均法の2つがあります。総平均法は、受入総額を受入総数で割った平均単価をもって払出単価とする方法です。すべての商品の単価が同一となります。移動平均法は、払出直前の残額を残高の数量で割ったその都度の平均単価でもって払出単価とする方法です。したがって、払出単価は1つですが、払出の都度、払出単価が異なります。

## 総平均法

(単位:円)

日付	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1/1	前繰	6個	10	60				6個	10	60
3/7	仕入	4個	15	60				10個		
5/9	売上				8個			2個		
7/4	仕入	6個	16	96				8個		
11/8	売上				5個			3個		
12/31	当期払出				13個	13.5	175.5			
"	次繰				3個	13.5	40.5			
		16個	13.5	216	16個	13.5	216			
1/1	前繰	3個	13.5	40.5						

### ● コメント

総平均法の場合には、受入欄については、数量、単価、金額を記入しますが、払出欄、残高欄については、期中の取引について数量のみを記入します。平均単価は次のように計算します。

$$\frac{\text{前繰分} \quad 3/7 \text{仕入分} \quad 7/4 \text{仕入分}}{6 \text{個} \times 10 \text{円} + 4 \text{個} \times 15 \text{円} + 6 \text{個} \times 16 \text{円}} = \frac{216 \text{円}}{16 \text{個}} = 13.5 \text{円/個}$$

12/31 当期払出の行に、払出の数量13個と平均単価13.5円を記入して金額を175.5円とします。

次繰の行も同様に、残高の数量3個と平均単価13.5円を記入して金額40.5円とします。



## 取引例

前ページの総平均法の資料にもとづいて、移動平均法の商品有高帳を作成しなさい。

## 移動平均法

(単位：円)

日付	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1/1	前繰	6個	10	60				6個	10	60
3/7	仕入	4個	15	60				10個	12	120
5/9	売上				8個	12	96	2個	12	24
7/4	仕入	6個	16	96				8個	15	120
11/8	売上				5個	15	75	3個	15	45
12/31	当期払出				13個		171			
〃	次繰				3個	15	45			
		16個		216	16個		216			
1/1	前繰	3個	15	45						

## ● コメント

移動平均法の場合には、払出の都度、払出単価が計算されます。上記の取引例だと、まず1/1の前繰と3/7の受入の金額の合計120円を数量の合計10個で割った12円を計算します。

次に、5/9の払出8個について先ほどの単価12円を乗じて払出原価96円を計算します。残りは2個で払出単価は12円が変わりませんので、残高は24円になります。

さらに、7/4の受入金額96円に先ほどの残高24円を加えた120円を、7/4の数量6個と残高の数量2個を加えた8個で割って15円を計算します。この15円が次の払出単価となるわけです。

最後に、11/8の払出5個について単価15円を乗じて払出原価75円を計算します。残りは3個で払出単価は15円が変わりませんので、残高は3個で、金額は45円になります。このように移動平均法の場合には、払出時の単価は1つですが、払出の都度(5/9は12円、11/8は15円)異なっているのです。

なお、練習問題は、省略します。

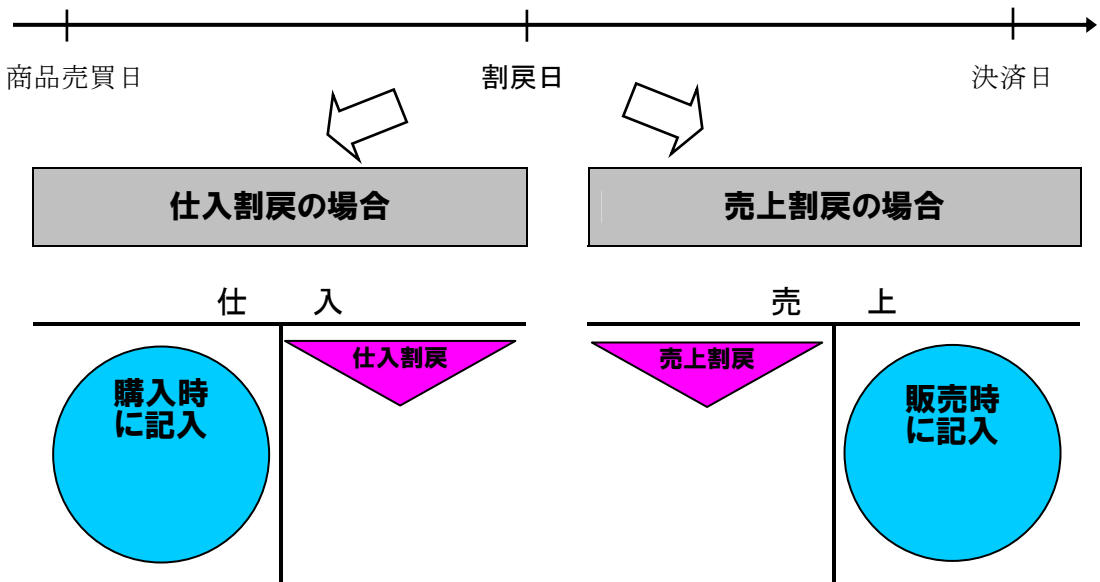
# 第03節 仕入及び売上の割戻

商品を一定期間に多額又は多量に購入した場合、仕入先が支払代金を一部を減額してくれる場合があります。これを「仕入割戻」といいます。

仕入割戻を受けた場合、支払代金の支払は少なくて済みます。そこで、「仕入値引」と同様に、仕入の減額(費用のマイナス)として処理します。

一方、商品を売った相手方はどうでしょう。売上代金の回収が少なくなります。その少なくなった分を「売上割戻」として、「売上値引」のように売上の減額(収益のマイナス)として処理します。

このように「仕入割戻」や「売上割戻」は、「値引」と同様に扱います。



● コメント

仕入割戻は、仕入値引と同様に、仕入(費用)の減額であること。したがって、仕入割戻があった場合には、割戻額だけ購入時の貸借反対仕訳をします。

売上割戻は、売上値引と同様に、売上(収益)の減額であること。したがって、売上割戻があった場合には、割戻額だけ販売時の貸借反対仕訳をします。

「割戻」のことを「リベート」とも言いますので覚えておいてください。

**取引例**

1. 当社は、4月5日に商品を800,000円で購入し、代金は月末に支払うことにした。

(借) 仕	入	800,000	(貸) 買	掛	金	800,000
-------	---	---------	-------	---	---	---------

2. 当社は、4月7日に、多額の商品を購入したので仕入先より40,000円の割戻を受けた。

(借) 買	掛	金	40,000	(貸) 仕	入	40,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

**練習問題**

次の取引の仕訳をしなさい。

- 2/1 当社は、商品900,000円を販売し、代金は2/28に受け取ることにした。

- 2/4 当社は、多量の商品を販売したので得意先に50,000円の割戻を行った。

**解答用紙**

2/1	(借)	(貸)
-----	-----	-----

2/4	(借)	(貸)
-----	-----	-----

**解 答**

2/1	(借) 売	掛	金	900,000	(貸) 売	上	900,000
-----	-------	---	---	---------	-------	---	---------

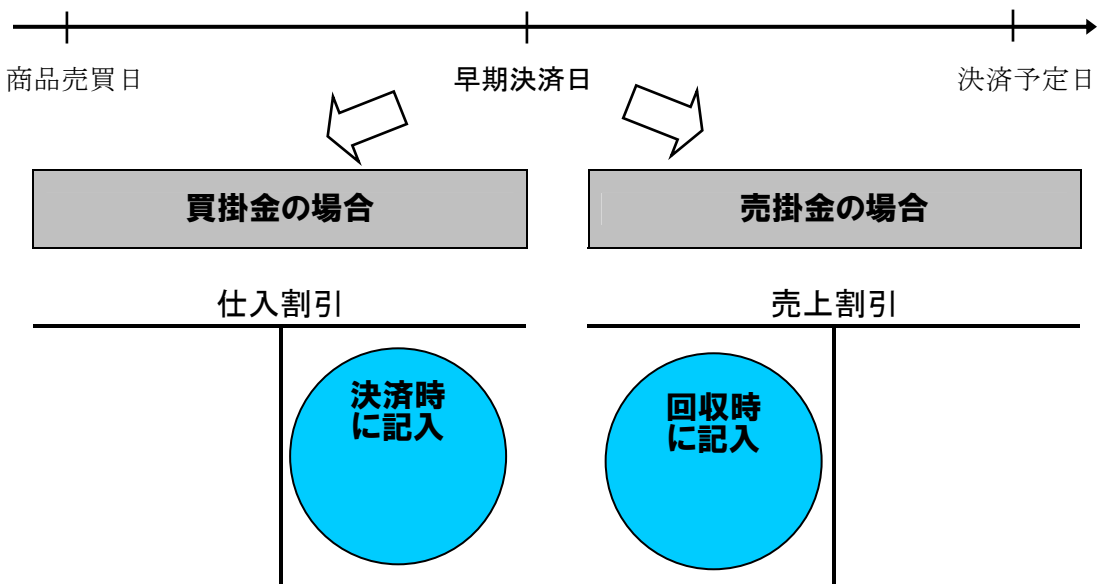
2/4	(借) 売	上	50,000	(貸) 売	掛	金	50,000
-----	-------	---	--------	-------	---	---	--------

# 第04節 仕入及び売上の割引

商品を掛で購入した場合、通常、支払時期は決まっています。たとえば月末に支払うとかです。約束どおり月末に支払えば何も問題はないのですが、お金の都合が出来たので掛代金の支払を早めにして少し代金を安くしてもらうことがあります。これを「仕入割引」(収益グループ)といいます。

仕入値引と同様に買掛金の代金の支払は少なく済みます。しかし、仕入値引は仕入の減額(費用のマイナス)として処理しましたが、この「仕入割引」は、仕入の金額を減額させないで、金融上の収益として処理します。

一方、商品を売った相手方はどうでしょう。売掛金の代金の回収が少なくなります。その少なくなった分を「売上割引」として金融上の費用(費用グループ)として処理し、売上値引のように売上の減額(収益のマイナス)とはしません。このように「仕入割引」や「売上割引」は金融上の収益・費用として扱います。



● **コメント**

仕入割引と仕入値引は、明確に区別してください。仕入割引が金融上の収益であるのに対して、仕入値引は仕入(費用)の減額であること。

売上割引と売上値引は、明確に区別してください。売上割引が金融上の費用であるのに対して、売上値引は売上(収益)の減額であること。

仕入割引と聞くと、「仕入」とあるので「費用」と思いがちですが、それは間違いですので十分注意してください。売上割引も同様です。

**取引例**

1. 当社は、4月8日に商品を1,000,000円で購入し、代金は月末に支払うことにした。なお、10日以内の支払の場合には50,000円割引してもらう約束である。

(借) 仕	入	1,000,000	(貸) 買	掛	金	1,000,000
-------	---	-----------	-------	---	---	-----------

2. 当社は、4月17日、お金の都合が出来たので代金950,000円を約束どおり支払って、50,000円の現金割引を受けた。

(借) 買	掛	金	1,000,000	(貸) 現	金	950,000	
					仕	入	
					割	引	
							50,000

**練習問題**

次の取引の仕訳をしなさい。

- 1/25 当社は、商品3,000,000円を販売し、代金は2/28に受け取ることにした。なお、10日以内の決済だと100,000円割引く約束である。  
 2/4 当社は、販売した得意先が代金2,900,000円を持参したので、約束どおり現金割引を行った。

**解答用紙**

1/25	(借)			(貸)		
------	-----	--	--	-----	--	--

2/4	(借)			(貸)		
-----	-----	--	--	-----	--	--

**解 答**

1/25	(借) 売	掛	金	3,000,000	(貸) 売	上	3,000,000
------	-------	---	---	-----------	-------	---	-----------

2/4	(借) 現	金	2,900,000	(貸) 売	掛	金	3,000,000
		売	上	割	引		100,000

# 第05節 商品の棚卸減耗

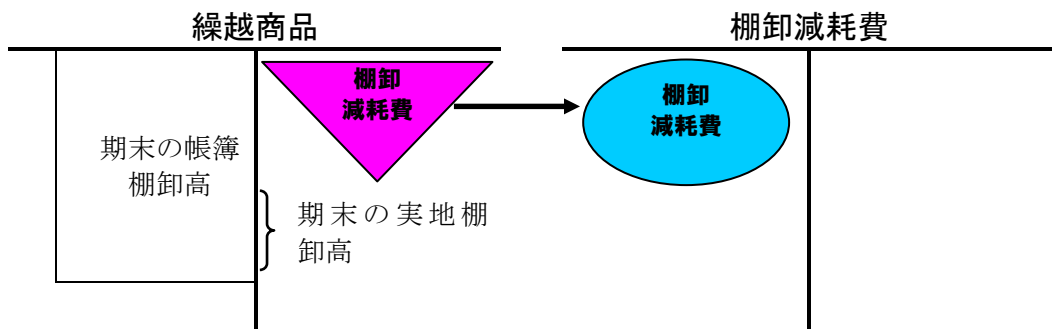
当社は、期末に商品の棚卸(実地調査)を行って、帳簿の数値(帳簿棚卸数量といいます)と実際にある有高(実地棚卸数量といいます)とを比較して商品の管理をしようと思っています。

この場合、帳簿棚卸数量と実地棚卸数量が一致しているのが理想ですが、商品の保管中や入出庫の運搬中に紛失・盗難・蒸発などの原因によって商品がなくなってしまうと実地棚卸数量の方が少なくなっている場合が実際にはあります。

このように帳簿棚卸数量に対する実地棚卸数量の不足数量分を『棚卸減耗』といい、これに商品の単価を乗じたものを『棚卸減耗費』といいます。なお、棚卸減耗費は、費用グループです。

(計算式)

$$\text{棚卸減耗費} = \text{帳簿棚卸高} - \text{実地棚卸高}$$



## ● コメント

棚卸減耗費の計算は、上記のようにすればいいのですが、これを仕訳で行うためには次のような手順になります。

- ① まず、期首の繰越商品を仕入勘定に振替えます。
- ② 次に、期末の繰越商品(帳簿棚卸高)を仕入勘定から控除します。この場合、帳簿棚卸高の金額で行います。ここまでは、日商 3 級で行った売上原価の計算です。
- ③ 最後に、この帳簿棚卸高の金額から棚卸減耗費を控除する仕訳を追加します。

## 取引例

1. 期末の帳簿棚卸高は 520,000 円であった。なお、期首の商品はなかった。売上原価の計算は、仕入勘定で行っている。

(借)	繰越商品	520,000	(貸)	仕入	520,000
-----	------	---------	-----	----	---------

2. 期末に、商品の实地棚卸を行った結果、450,000 円であった。

(借)	棚卸減耗費(注)	70,000	(貸)	繰越商品	70,000
-----	----------	--------	-----	------	--------

(注) 520,000 - 450,000 = 70,000 円

## 練習問題

次の取引の仕訳を下さい。

3/31 期末の帳簿棚卸高は 490,000 円であった。なお、期首の商品は 380,000 円であった。ただし、売上原価の計算は、仕入勘定で行っている。

3/31 期末に、商品の实地棚卸を行った結果、360,000 円であった。

## 解答用紙

3/31	(借)	(貸)

3/31	(借)	(貸)
------	-----	-----

## 解 答

3/31	(借)	仕入	380,000	(貸)	繰越商品	380,000
		繰越商品	490,000		仕入	490,000

3/31	(借) 棚卸減耗費(注)	130,000	(貸)	繰越商品	130,000
------	--------------	---------	-----	------	---------

(注) 490,000 - 360,000 = 130,000

# 第06節 商品の評価替え

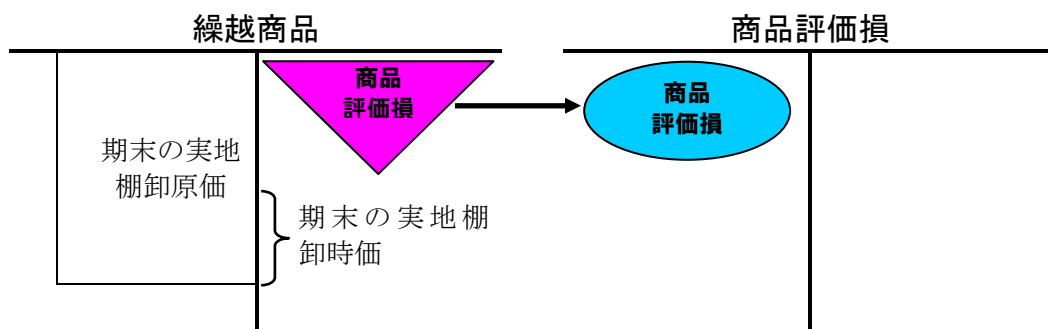
前節で期末の実地棚卸高が確定しましたが、その商品の時価が取得原価(買ったときの金額)よりも安くなったときには、商品の金額を取得原価から時価に修正することがあります。これを「商品の評価替え」といいます。

これは会社の財産の実態をよりよく示すために行われます。

評価替えによって損失が発生しますが、『商品評価損』という費用グループの勘定で処理します。

(計算式)

$$\text{商品評価損} = \text{実地棚卸原価} - \text{実地棚卸時価}$$



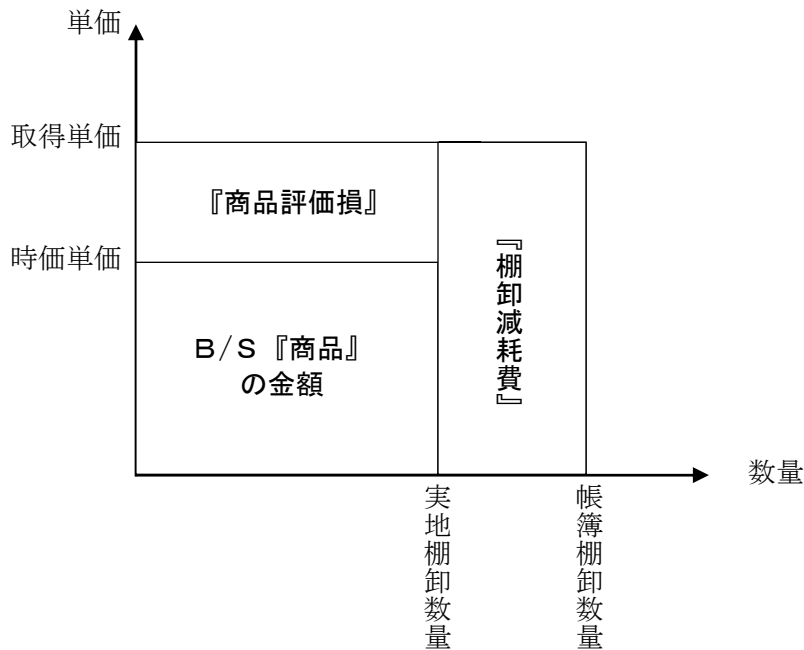
## ● コメント

商品評価損の計算は、上記のようにすればいいのですが、これを仕訳で行うためには次のような手順になります。

- ① まず、期首の繰越商品を仕入勘定に振替えます。
- ② 次に、期末の繰越商品(帳簿棚卸高)を仕入勘定から控除します。この場合、帳簿棚卸高の金額で行います。ここまでは、日商3級で行った売上原価の計算です。
- ③ さらに、この帳簿棚卸高の金額から棚卸減耗費を控除する仕訳をします。
- ④ 最後に、棚卸減耗費を控除した実地棚卸原価から商品評価損を控除する仕訳をして、商品の金額を実地棚卸時価とします。



★ ここで、商品の評価減(棚卸減耗費と商品評価損)について理解図で整理しておきましょう。



★ 次に、商品評価減がある場合の損益計算書のフォームの一例(棚卸減耗費も商品評価損も売上原価の内訳科目のケース)も示しておきましょう。

損 益 計 算 書			(単位：円)
I 売上高			×××
II 売上原価			
1. 期首商品棚卸高		×××	
2. 当期商品仕入高		×××	
合 計		×××	
3. 期末商品棚卸高		×××	
差 引		×××	
4. 棚卸減耗費	(+)	×××	
5. 商品評価損	(+)	×××	×××
売上総利益			×××

(注) (+)は、加算を示しています。

● コメント

この他に、『棚卸減耗費』を販売費及び一般管理費の区分に表示したり、『商品評価損』を営業外損益の区分に表示したりすることもあります。問題によって変わってきますので、十分注意してください。

**取引例**

1. 期末の帳簿棚卸高は 480,000 円であった。なお、期首の商品は 360,000 円であった。売上原価の計算は、仕入勘定で行っている。

① 期首商品棚卸高を仕入に振替える仕訳

(借) 仕	入	360,000	(貸) 繰	越	商	品	360,000
-------	---	---------	-------	---	---	---	---------

② 期末商品棚卸高を仕入から控除する仕訳

(借) 繰	越	商	品	480,000	(貸) 仕	入	480,000
-------	---	---	---	---------	-------	---	---------

2. 期末に、商品の实地棚卸を行った結果、原価は 450,000 円で、その時価は 380,000 円であった。なお、当社は期末に商品の評価替えを行っている。

① 棚卸減耗費を計上する仕訳

(借) 棚卸減耗費(注)	30,000	(貸) 繰	越	商	品	30,000
--------------	--------	-------	---	---	---	--------

(注)  $480,000 - 450,000 = 30,000$  円

② 商品評価損を計上する仕訳

(借) 商品評価損(注)	70,000	(貸) 繰	越	商	品	70,000
--------------	--------	-------	---	---	---	--------

(注)  $450,000 - 380,000 = 70,000$  円

3. 報告式の損益計算書の作成

なお、棚卸減耗費は、販売費及び一般管理費に表示し、商品評価損は、売上原価の内訳科目として表示する。

	損 益 計 算 書	(単位：円)
I 売上高		800,000
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	360,000	
2. 当期商品仕入高	500,000	
計	860,000	
3. 期末商品棚卸高	480,000	
4. 商品評価損	70,000	
売上総利益		350,000
III 販売費及び一般管理費		
1. 棚卸減耗費	30,000	
	⋮	

**練習問題**

次の資料に基づいて次報告式の損益計算書(一部)を作成しなさい。なお、棚卸減  
 耗費は、売上原価の内訳科目として表示し、商品評価損は、営業外損益の区分に表  
 示すること。

3/31 当期の仕入高は 400,000 円であり、期末の帳簿棚卸高は 380,000 円であった。な  
 お、期首の商品 260,000 円であった。売上原価の計算は、仕入勘定で行っている。

さらに、期末に商品の実地棚卸を行った結果、原価は 360,000 円で、その時価は  
 300,000 円であった。なお、当社は期末に商品の評価替えを行っている。

**解答用紙**

		<u>損益計算書</u>	(単位：円)
I	売上高		700,000
II	売上原価		
	1. 期首商品棚卸高	<input type="text"/>	
	2. 当期商品仕入高	<input type="text"/>	
	合計	<input type="text"/>	
	3. 期末商品棚卸高	<input type="text"/>	
	差引	<input type="text"/>	
4.	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	売上総利益		<input type="text"/>
III	営業外損失		
	1. <input type="text"/>	<input type="text"/>	

**解答**

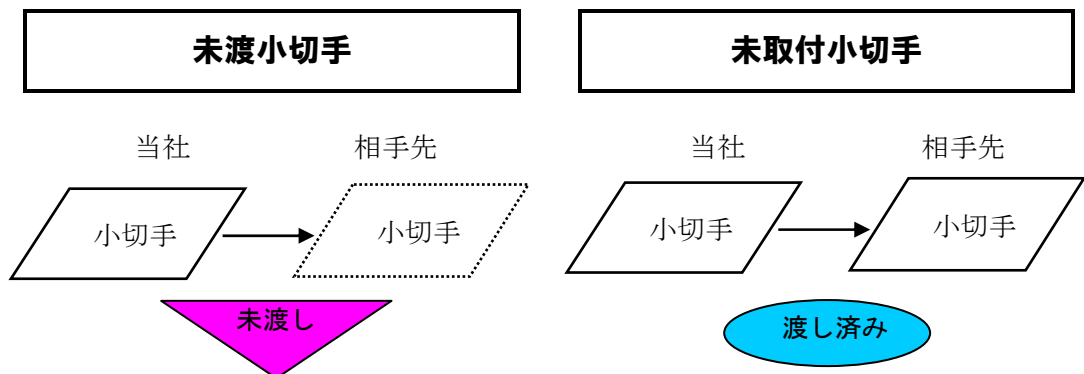
		<u>損益計算書</u>	(単位：円)
I	売上高		700,000
II	売上原価		
	1. 期首商品棚卸高	260,000	
	2. 当期商品仕入高	400,000	
	合計	660,000	
	3. 期末商品棚卸高	380,000	
	差引	280,000	
4.	棚卸減耗費	20,000	300,000
	売上総利益		400,000
III	営業外損失		
	1. <input type="text"/>	60,000	

# 第07節 未渡小切手と未取付小切手

通常、当社が相手に手渡す(振出といいます)小切手(自己振出小切手)の会計処理は、貸方『当座預金』となりますが、ここでいう未渡小切手と未取付小切手は、自己振出小切手が特殊な状態にある時に起こります。

未渡小切手は、相手先に振出そうと思って支払済の記帳はなされているのですが、実際には相手に渡されていない小切手をいいます。これは、営業担当者に小切手を手渡した時点で支払済の記帳をしたが、相手先が休日で実際に渡せなかった場合に起こります。この未渡小切手は、実際には支払っていないのですから、振出したときの仕訳の取消仕訳が必要となります。

一方、未取付小切手は、相手先に実際に振出して相手先が実際に受取っているのですが、相手先がまだ当社の当座預金口座から引落しをしていない状態にある小切手をいいます。この場合には、相手方が引落していないだけですから相手方の問題で、当社の会計処理上問題点はないので、未渡小切手のように修正仕訳は不要です。なお、これらの小切手があると、当社の当座預金の残高と銀行の当社の当座預金口座の残高とは一致しません。この点につきましては次節の銀行勘定調整表のところで取り扱います。



## ● コメント

未渡小切手の場合には修正仕訳が必要です。相手科目が負債勘定の場合には振出したときの反対仕訳をするだけでよいのですが、相手科目が費用勘定の場合には振出したときの反対仕訳ではサービスの提供を受けていないこととなりますので、未払金勘定を使って処理します。注意してください。

### ① 相手勘定が負債の場合の修正仕訳

(借) 当座預金 ×× (貸) 負債勘定 ××

### ② 相手勘定が費用の場合の修正仕訳

(借) 当座預金 ×× (貸) 未払金勘定 ××

**取引例**

1. 当社は、得意先の買掛代金支払のため営業担当者に小切手 40,000 円を手渡し、支払済の処理を行ったが、実際には得意先に渡していなかったため、修正処理をした。

(借)	当座預金	40,000	(貸)	買掛金	40,000
-----	------	--------	-----	-----	--------

2. 当社は、得意先の買掛代金支払のため小切手 60,000 円を振出したが、得意先がいまだ取立をしていないので当社の銀行の当座預金口座の残高が減少していない。

(借)	仕訳不要	(貸)
-----	------	-----

**練習問題**

次の取引の仕訳をなさい。

- 3/31 当社は、広告代金支払のため事務員に小切手 30,000 円を手渡し、支払済の処理を行ったが、実際には広告代理店に渡していなかったため、修正処理をした。

- 3/31 当社は、得意先の買掛代金支払のため小切手 70,000 円を振出したが、得意先がいまだ取立をしていないので当社の銀行の当座預金口座の残高が減少していない。

**解答用紙**

3/31	(借)	(貸)
------	-----	-----

3/31	(借)	(貸)
------	-----	-----

**解答**

3/31	(借)	当座預金	30,000	(貸)	未払金	30,000
------	-----	------	--------	-----	-----	--------

3/31	(借)	仕訳不要	(貸)
------	-----	------	-----



**練習問題**

次の資料に基づいて銀行勘定調整表を完成させなさい。

3/31 当社の当座預金勘定残高 : 80,000 円

銀行の当座預金口座の残高 : 100,000 円

なお、不一致原因は以下のとおりであった。

- ① 未渡小切手 20,000 円
- ② 電話料金の自動引落しの報告未達 10,000 円
- ③ 締め後入金 30,000 円
- ④ 未取付小切手 40,000 円

**解答用紙**

<u>銀行勘定調整表</u>		(単位 : 円)
×年×月×日		
取引銀行 : ××銀行本店		
企業の預金勘定残高 :		銀行残高証明書の金額 :
加算 :		加算 :
減算 :		減算 :
調整後残高 :		調整後残高 :

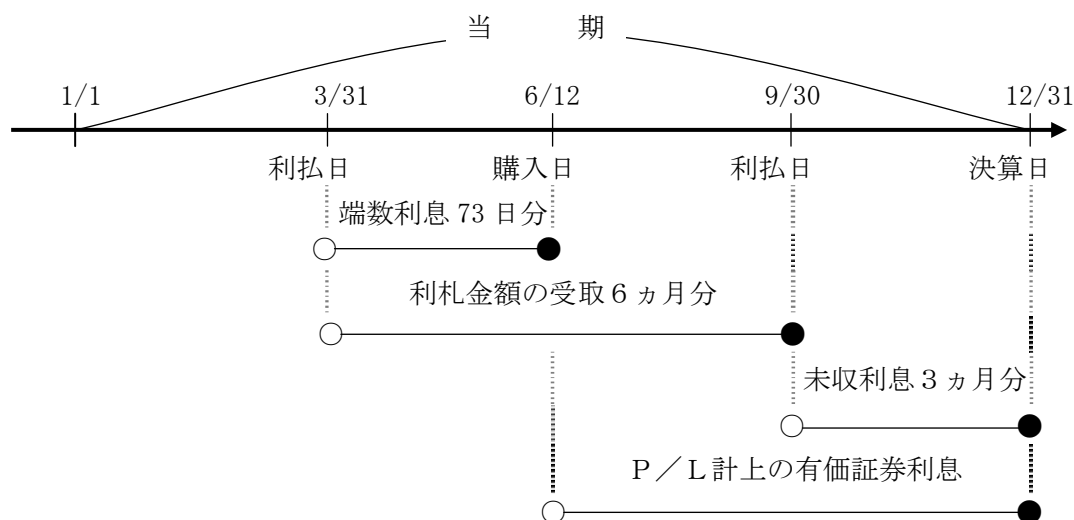
**解 答**

<u>銀行勘定調整表</u>		(単位 : 円)	
×年×月×日			
取引銀行 : ××銀行本店			
企業の預金勘定残高 :	80,000	銀行残高証明書の金額 :	100,000
加算 : 未渡小切手	20,000	加算 : 締め後入金	30,000
減算 : 自動引落しの報告未達	10,000	減算 : 未取付小切手	40,000
調整後残高 :	90,000	調整後残高 :	90,000

- ★ 未渡小切手は、当社の当座預金が減額されているので、当社の加算。  
 自動引落報告未達は、当社の当座預金が減額されていないので、当社の減算。  
 締め後入金は、銀行の当座預金が増加されていないので、銀行の加算。  
 未取付小切手は、銀行の当座預金が減額されていないので、銀行の減算。

# 第09節 債券の端数利息

国債や社債などの債券は、株式と同様、有価証券勘定で処理されますが、配当を受取る株式と違ってあらかじめ決まっている利息を受取ります。ただ、債券の購入に際しては、前回の利払日の翌日から購入日までの利息(端数利息といいます)を支払い、『有価証券利息』勘定の借方に計上し、利払日に前回の利払日の翌日から今回の利払日までの期間の利息を受取り、『有価証券利息』勘定の貸方に計上します。結果的には、購入日の翌日から利払日までの利息を受取ることになるのですが、購入した日に債券の売却側に売却側の受取るべき利息を支払わなければいけないのでこのような複雑な取引となります。そして、今回の利払日の翌日から決算日までの利息は、『未収有価証券利息』勘定で処理します。『有価証券利息』勘定は収益グループです。



(注) ○：当該日を含まない。 ●：当該日を含む

## ● コメント

- ① 債券を購入したときには、購入代価に付随費用を加算した額が取得原価になりますが、この他に、端数利息(経過利息)を支払います。この場合、相手がありますので、利息の計算は日割計算をして厳密に行わなければいけません。
- ② 利払日には、利札が半年分の計算になっていますので月割計算となっています。
- ③ 決算日には、経過利息を計上しなければいけません、この場合には相手がないので通常、月割計算をします。
- ④ 結局、当期の損益計算書に計上される有価証券利息は、購入日の翌日から決算日までの利息が計上されることとなります。



**取引例**

1. 当社は、6月12日に社債券面額1,000,000円を@100円につき@98円で購入し、代金は端数利息とともに現金で支払った。なお、利息は年利率6%で、利払日は3月末と9月末の年2回である。

(借) 有 価 証 券	980,000	(貸) 現 金	992,000
		有 価 証 券 利 息 (注)12,000	

(注)  $1,000,000 \times 6\% \times 73 \text{日} (4 \text{月は} 30 \text{日}, 5 \text{月は} 31 \text{日}, 6 \text{月は} 12 \text{日}) \div 365 \text{日} = 12,000$

2. 9月30日の利払日になったので、利息を現金で受取った。

(借) 現 金 (注)30,000	(貸) 有 価 証 券 利 息	30,000
-------------------	-----------------	--------

(注)  $1,000,000 \times 6\% \times 6 \text{ヵ月} \div 12 \text{ヵ月} = 30,000$

3. 12月31日の決算日となったので、収益の見越計上を行った。利息は月割計算で行う。

(借) 未収有価証券利息 (注)15,000	(貸) 有 価 証 券 利 息	15,000
------------------------	-----------------	--------

(注)  $1,000,000 \times 6\% \times 3 \text{ヵ月} \div 12 \text{ヵ月} = 15,000$

**練習問題**

上記の取引をもとに、有価証券利息勘定の勘定記入をしなさい。

**解答用紙**

**解 答**

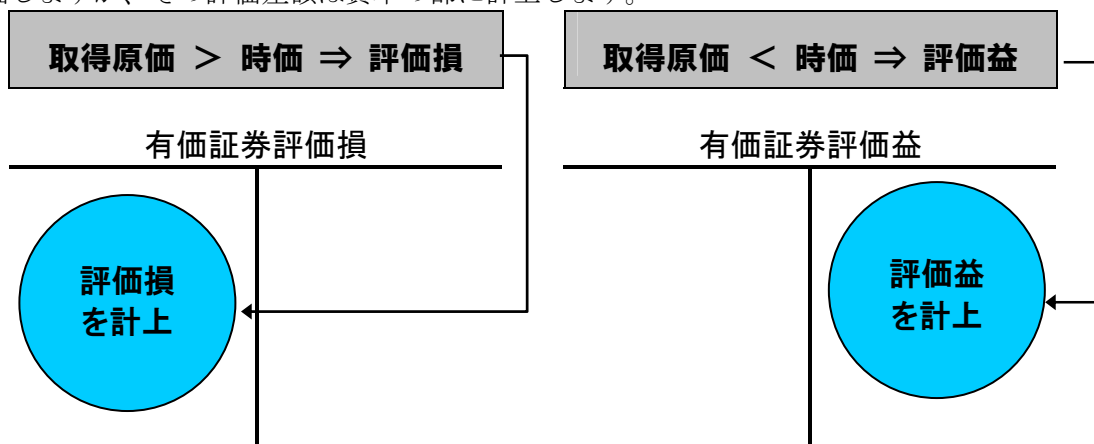
有価証券利息	
P/L 計上額	

有価証券利息	
6/12 現金 12,000	9/30 現金 30,000
P/L 計上額 33,000	12/31 未収利息 15,000

# 第10節 有価証券の評価替

当社は、余った資金を運用するため、時価の変動により利益を得ることを目的とした有価証券(売買目的有価証券といいます)を保有しています。

そして、期末にその有価証券の時価が取得した時の原価よりも低い場合には、その差額を『有価証券評価損』勘定(費用グループ)で処理し、損失を計上しますが、逆に時価のほうが原価よりも高かった場合には、その差額を『有価証券評価益』勘定(収益グループ)で処理し、利益を計上します。このように期末に有価証券の取得原価を時価に変更することを「評価替え」といい、その評価方法を「時価法」といいます。これは会社の実態を正しく表示するために行われます。なお、上記のような売買目的の有価証券は、時価で評価しますが、満期保有目的債券(原則として)や子会社株式及び関連会社株式については原価のままで評価します。さらに、上記以外のその他の有価証券については時価で評価しますが、その評価差額は資本の部に計上します。



## ● コメント

有価証券の評価替えの計算は次のように行います。

- ① 有価証券評価損が生じる場合  
有価証券の取得原価 - 有価証券の時価 = 有価証券評価損
- ② 有価証券評価益が生じる場合  
有価証券の時価 - 有価証券の取得原価 = 有価証券評価益

なお、有価証券は保有目的等の観点から次の4つに分類されます。

- ① 売買目的有価証券… 時価の変動により利益を得ることを目的として保有する有価証券をいいます。
- ② 満期保有目的債券… 企業が満期まで保有することを目的としていると認められる社債その他の債券をいいます。
- ③ 子会社株式及び関連会社株式… 関連会社株式は、他企業への影響力の行使を目的として保有する株式です。
- ④ その他有価証券… 上記①から③までのいずれにも分類できない有価証券です。

## 取引例

1. 決算にあたり、当社が保有している売買目的有価証券の取得原価 57,000 円を時価 44,000 円に評価替えをする。

(借) 有価証券評価損 (注)13,000	(貸) 売買目的有価証券	13,000
-----------------------	--------------	--------

(注)  $57,000 - 44,000 = 13,000$  円

2. 決算にあたり、当社が保有している売買目的有価証券の取得原価 62,000 円を時価 78,000 円に評価替えをする。

(借) 売買目的有価証券	16,000	(貸) 有価証券評価益 (注)16,000
--------------	--------	-----------------------

(注)  $78,000 - 62,000 = 16,000$  円

## 練習問題

次の取引の仕訳をしなさい。

- 3/31 決算にあたり、当社が保有している売買目的有価証券の取得原価 89,000 円を時価 75,000 円に評価替えをする。

- 3/31 決算にあたり、当社が保有している売買目的有価証券の取得原価 49,000 円を時価 67,000 円に評価替えをする。

## 解答用紙

3/31	(借)	(貸)
------	-----	-----

3/31	(借)	(貸)
------	-----	-----

## 解答

3/31	(借) 有価証券評価損 (注)14,000	(貸) 売買目的有価証券	14,000
------	-----------------------	--------------	--------

(注)  $89,000 - 75,000 = 14,000$  円

3/31	(借) 売買目的有価証券	18,000	(貸) 有価証券評価益 (注)18,000
------	--------------	--------	-----------------------

(注)  $67,000 - 49,000 = 18,000$  円

参考：『有価証券評価損』と『有価証券評価益』の両方が出てくる場合には、相殺して純額で損益計算上、記載します。

## 第11節 満期保有目的債券の償却原価法の適用

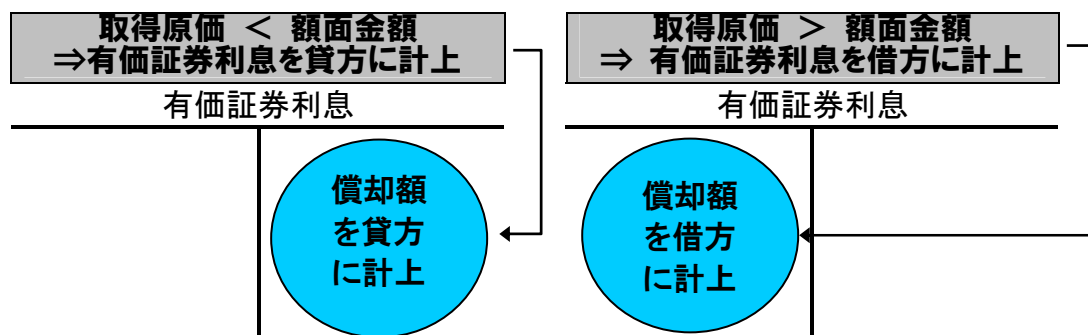
満期保有目的の債券とは、満期まで所有する意図をもって保有する社債その他の債券をいいます。満期保有目的の債券は、『取得原価』をもって貸借対照表価額とします。ただし、債券を債券金額より低い価額又は高い価額で取得した場合において、取得価額と債券金額との差額の性格が金利の調整と認められるときは、『償却原価法に基づいて算定された価額』をもって貸借対照表価額としなければなりません。

なお、償却原価法とは、債権又は債券を債権金額又は債券金額より低い価額又は高い価額で取得した場合において、当該差額に相当する金額を弁済期又は償還期に至るまで毎期一定の方法で貸借対照表価額に加減する方法をいいます。この場合には、当該加減額を『受取利息』又は『有価証券利息』（当期の損益）に含めて処理します。

そして、この償却原価法には、原則法としての利息法と簡便法としての定額法の二つの方法があります。

利息法とは、債券のクーポン受取総額と金利調整差額の合計額を債券の帳簿価額に対し一定率(実効利率)となるように、複利をもって各期の損益に配分する方法をいい、当該配分額とクーポン計上額(クーポンの現金受取額及びその既経過分の未収計上額の増減額の合計額)との差額を帳簿価額に加減する方法をいいます。

定額法とは、債券の金利調整差額を取得日(又は受渡日)から償還日までの期間で除して各期の損益に配分する方法をいい、当該配分額を帳簿価額に加減します。なお、この定額法は、利息法の計算方法の複雑性を考慮して、継続適用を条件として認めています。償却原価法の会計処理(決算日)は、次のようになります。



### ● コメント

満期保有債券の償却原価法を適用した場合、次のようになります。

- ①債券の取得原価<債券の額面金額のとき⇒『有価証券利息』を貸方に計上
  - ②債券の取得原価>債券の額面金額のとき⇒『有価証券利息』を借方に計上
- 満期保有目的の債券の表示は、次のようになります。

#### ① 貸借対照表の表示

満期保有目的の債券のうち1年以内に満期の到来する債券は、流動資産の部に『有価証券』として表示します。

上記の要件を満たさない場合には、固定資産の部の『投資その他の資産』に『満期保有目的債券(投資有価証券)』として表示します。

#### ② 損益計算書の表示

満期保有目的の債券に償却原価法を適用した場合の金利調整差額は、各期に配分され、当期の配分額を『有価証券利息』に含めて表示します。